

教育学部保育士養成課程において 小学校教員免許等をあわせて取得した学生の特徴

深谷 和義, 小杉 裕子 (相山女学園大学)

保育士養成課程を有する教育学部の学生において、保育士資格と幼稚園教員免許のみを取得した学生と、加えて小学校教員免許、司書教諭資格も取得した学生とで人数、学力、進路状況等を調査・分析した。その結果、学校推薦型選抜での入学者よりも一般選抜での入学者の方が多くの資格を取得している傾向にあった。また、取得資格が多いと履修科目数が多いのにも関わらず、大学でのほとんどの科目においてGPAが高いことがわかった。さらに、小学校教員免許取得者の方が小学校だけでなく公務員保育士・公立幼稚園が進路先として多かった。

キーワード：保育士養成課程, 小学校教員免許, 評定値, GPA, 進路

1 はじめに

保育士養成課程を有する学校には、大学、短期大学、専修学校がある。それらの学校において、保育士資格以外にも取得できる資格がいくつかある。まず、多くの学校で幼稚園教員免許が取得できる。これは、2006年に幼稚園的機能と保育的機能の両方を合わせ持つ認定こども園制度が創設されたため、幼稚園教員免許と保育士資格の併有が促進されたことが理由の一つとして挙げられる。さらに、大学の場合、小学校教員免許取得が可能な学校も多い。他にも、中学・高等学校、特別支援学校などの教員免許取得も可能な大学もいくつかある。ただし、小学校等の教員免許は必ずしも全員が取得するのではなく、希望者のみが取得している。

保育士養成大学における複数免許取得の可能な大学数の状況は、2022年4月1日現在で次の通りである。まず、保育士資格取得が可能な大学は251校で(厚生労働省, 2022)、幼稚園教員免許取得が可能な大学は268校である(文部科学省, 2022)。保育士資格と幼稚園教員免許取得の両方が可能な大学は235校あり、これは、保育士資格取得可能な大学の93.6%、幼稚園教員免許取得可能な大学の87.7%となる。次に、小学校教員免許取得が可能な大学は250校ある(文部科学省, 2022)が、幼稚園教員免許取得が可能な268校の中では213校で79.5%の大学となっている。なお、複数の学部で免許取得が可能な大学の場合、いずれか一つの学部であっても両方の取得が可能であれば両方が可能な大学として数えている。

保育士資格と幼稚園教員免許を取得する保育士養成課程の学生が、あわせて小学校教員免許を取得するには多くの取得単位を要する。また、保育士・幼稚園教員と小学校教員とでは対象児の年齢が異なり、職務

内容にも違いが多いことから取得に必要な科目の学習内容も大きく異なる。そのため、取得学生に何らか傾向の違いがみられる可能性がある。

岡田(2018a, 2018b)は、保育士資格と幼稚園教員免許に加えて小学校教員免許を取得することに学生が感じている意義を調査している。そこでは、大学在学中の学生への意識調査が中心であり、入試区分や卒業後の進路の視点での調査は行われていない。

竹内(2020)は保育士養成を目的とする私立大学の学部において、教員採用試験の合格率が入試区分の違いによる高等学校評定値と大学でのGPAとの関係や進路先の特徴などを分析している。しかし、取得した資格による傾向の違いは扱っていない。

本研究では、保育士養成課程を有する学部において、保育士資格と幼稚園教員免許のみを取得した学生と、加えて小学校教員免許等も取得した学生とで入試区分の傾向、大学での成績等の学習成果、進路状況の特徴等を明らかにすることを目的とする。

2 調査対象学部の状況

2.1 調査対象学部の概要

本研究における調査対象は、中規模私立女子大学A大学の教育学部である。2022年5月1日現在で、大学の収容定員5,464名、教育学部の収容定員692名となっている。

教育学部は2007年度に設置され、「保育・初等教育専修」と「初等中等教育専修」とに分かれている。本研究で扱う保育士資格は保育・初等教育専修だけが取得可能であるため、以下において対象学部と記載した場合に、保育・初等教育専修のみを扱う¹⁾。

対象学部の入学定員は90名である。ただし、2016

年度入学者までは 80 名の入学定員であった。年度により定員以外に他専修との転専修学生が若干名いる。

対象学部では幼稚園教員免許取得が卒業要件となっている。それ以外に、原則として保育士資格取得が必須であり、他に本人の希望で小学校教員免許、司書教諭資格、司書資格等が取得できる。

2.2 入試区分

対象学部の入学試験には、2023 年度入試において、入試日程の順に示すと、学校推薦型選抜として「併設校制推薦入試 (20)」²⁾「指定校制推薦入試 (25)」があり、一般選抜として「一般入試 A (35)」³⁾「大学入学共通テスト利用入試 A (2)」³⁾「一般入試 B (6)」³⁾「大学入学共通テスト利用入試 B (1)」³⁾がある。また、受験者はほとんどいないが、他に「社会人入学特別選抜 (1)」がある。それぞれの () 内には各入学試験の募集人数を記載している。

「併設校制推薦入試」と「指定校制推薦入試」では、調査書に記載された「全体の評定平均値」(以下、単に「評定値」と記す。)に基準を定めたうえで、志望理由書等の「出願書類」「調査書に基づく学力」「面接」で総合的に判断して選抜する。一方、「一般入試 A」「大学入学共通テスト利用入試 A」「一般入試 B」「大学入学共通テスト利用入試 B」では、「大学独自の試験問題」または「共通テスト」を使った筆記試験による学力で選抜している。また、「社会人入学特別選抜」では「出願書類」「小論文」「面接」で総合的に選抜している。

3 調査対象者の状況別人数

3.1 入試区分別人数

対象学部における 2021 年度末までの卒業生は 1,050 名である。この 1,050 名を本研究の対象とする。

卒業生の入試区分ごとの人数と全体に対する割合を表 1 に示す。入試区分は 2.2 節で示した順に記載している。ただし、「一般入試 A」と「大学入学共通テスト利用入試 A」は合わせて「前期入試」、「一般入試 B」と「大学入学共通テスト利用入試 B」は合わせて「後期入試」とする。また、「他」の区分には 2.1 節で示した転専修等も含まれている。表中及び以下においては省略した名称で示している。なお、「他」の人数はそれ以外の入試区分と比較して非常に少ないため、以下の調査結果においては扱わない。

表 1 入試区分ごとの卒業生数

入試区分	人数 (割合)
併設	238 (22.7%)
指定	251 (23.9%)
前期	456 (43.4%)
後期	103 (9.8%)
他	2 (0.2%)
全体	1,050 (100%)

3.2 取得資格別人数

卒業生の卒業時における取得資格の組合せ別の人数と割合を表 2 に示す。

取得資格の種類は 2.1 節で述べたように複数資格取得が可能である。対象学部の卒業生が取得した資格の組合せは幼稚園のみ(幼)、保育士と幼稚園(保幼)、保育士と幼稚園と小学校(保幼小)、保育士と幼稚園と小学校と司書教諭(保幼小司)、保育士と幼稚園と司書(保幼書)、保育士と幼稚園と小学校と司書教諭と司書(保幼小司書)の 6 通りである。表 2 において、取得資格の組合せは上記における () 内のように省略して記載している。以下においても同様である。

表 2 から、卒業要件としている幼稚園教員免許取得に加えて、原則として保育士資格を取得していることがわかる。また、「保幼」のみの人数が約 20% しかないのに対して、70% 以上が小学校もあわせた三つを取得している。さらに、司書教諭資格も取得している卒業生も 7% 強いる。なお、幼稚園のみの取得者と「保幼書」及び「保幼小司書」の取得者は人数が少ないため、以下においてはこれらの区分を扱わない。

表 2 取得資格ごとの卒業生数

入試区分	人数 (割合)
幼	1 (0.1%)
保幼	210 (20.0%)
保幼小	758 (72.2%)
保幼小司	78 (7.4%)
保幼書	1 (0.1%)
保幼小司書	2 (0.2%)
全体	1,050 (100%)

3.3 進路先別人数

卒業生の進路先ごとの人数と割合を表 3 に示す。進路先は「公務員保育士(公立保)」「私立保育士(私立保)」「公立幼稚園(公立幼)」「私立幼稚園(私立幼)」「公立小学校(公立小)」「私立小学校(私立小)」「企業・一般公務員(企業)」「進学」「就職希望なし・不明(未

定)」の9つに分類している。表3では()内のように略記しており、以下でも同様である。なお、保育士には保育所、こども園、児童養護施設職員等を含んでいる。

表3より、多い方から公立保、私立幼、企業、私立保、公立小と続く。保育士養成課程であることから、公立保、私立保、公立幼、私立幼を合わせて74.3%でおおよそ4分の3と多いが、公立小も10%近くいる。なお、以下では、採用試験において、保育士と幼稚園という種別の違いよりも公立・私立での違いの方が大きいことから「公立保」「公立幼」は「公立幼保」、「私立保」「私立幼」は「私立幼保」とまとめて扱う。他にも、人数が少ない区分をまとめて、「公立小」「私立小」は「小学校」、「進学」「未定」は「その他」として扱う。

表3 進路先ごとの卒業生数

進路先	人数 (割合)
公立保	398 (37.9%)
私立保	113 (10.8%)
公立幼	20 (1.9%)
私立幼	249 (23.7%)
公立小	98 (9.3%)
私立小	1 (0.1%)
企業	142 (13.5%)
進学	5 (0.5%)
未定	24 (2.3%)
全体	1,050 (100%)

4 結果と考察

4.1 取得資格ごとの平均履修科目数

卒業生の卒業時における取得資格の組合せ別での平均履修科目数を表4に示す。平均履修科目数は卒業までに履修した合計の科目数の平均で求めている。()内には、標準偏差を記載している。

平均履修科目数を比較すると、「保幼」に対して「保幼小」が10科目ほど多くなっている。これは、幼稚園教員免許と小学校教員免許とでは「教職課程及び指導法に関する科目」で必要な「保育内容の指導法」7科目と「各教科の指導法」9科目とが別科目となっている他は多くの科目が共通となっているからだと考えられる⁴⁾。また、「保幼小」に対して「保幼小司」では6科目ほど多いのは、対象学部においては司書教諭資格取得に必要な科目を6科目に設定しているからである⁵⁾。資格を多く取得した卒業生は、その分だけ履修科目が多くなっており、履修意欲が高いといえる。なお、どの取得資格においても標準偏差が小さく、個

人差が小さいといえる。

表4 取得資格ごとの平均履修科目数

入試区分	人数 (割合)
保幼	71.8 (3.39)
保幼小	81.8 (3.08)
保幼小司	87.6 (3.02)
全体	80.3 (5.54)

4.2 入試区分ごとでの取得資格別人数の割合

入試区分の違いによる取得資格の傾向を明らかにするために、入試区分ごとの取得資格別人数の割合(%)を帯グラフで図1に示す。入試区分は3.1節と同様で人数が少ない「他」を除く4つを扱っている。

学校推薦型選抜である「併設」「指定」は「保幼」の割合が比較的多いものに対して、一般選抜である「前期」「後期」では「保幼小」「保幼小司」が多くなっていることがわかる。一般選抜での入学者の方が多くの資格を取得している傾向にあるといえる。

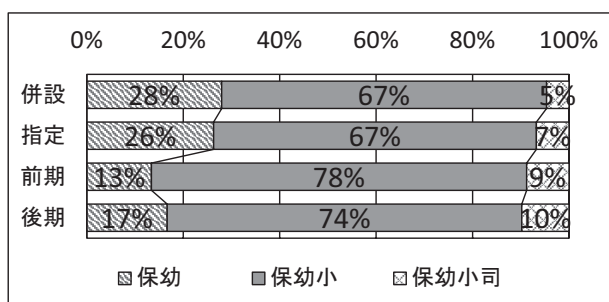


図1 入試区分ごとでの取得資格別人数の割合

4.3 入試区分ごとでの取得資格別の受験時評定値

入試区分ごとの取得資格別の入学前の学力を評価するため、受験時評定値の特徴を明らかにする。受験時評定値を入試区分と取得資格で分けた平均値を表5に示す。()内は標準偏差である。入試区分ごと、取得資格ごとでの全体の値も示している。

なお、学校推薦型選抜では指定校制推薦で最低評定値を若干変えたことがあるが、高校での推薦段階でおおよそ一定水準の選抜を継続している。また、一般選抜において中心となる一般入試Aの実質倍率がおおよそ3倍以上を確保できている。従って、以下において、選抜機能が働いていると仮定する。

表5より、入試区分で比較すると、どの取得資格においても学校推薦型選抜の方が一般選抜よりも高くなっている。それに対して、取得資格で比較すると、入試区分によって傾向が異なるものの全体で見るとあ

より大きな違いはない。また、取得資格に関わらず、一般選抜の方が学校推薦型選抜よりも標準偏差が全般的に若干大きく、個人差が少しあるといえる。

以上の結果から、資格取得の違いによって入学前の学力に違いはみられないといえる。

表5 入試区分ごとでの取得資格別の評定値

入試区分	保幼	保幼小	保幼小司	全体
併設	3.98 (0.30)	4.01 (0.35)	4.20 (0.43)	4.01 (0.34)
指定	4.08 (0.34)	4.00 (0.30)	4.11 (0.30)	4.03 (0.31)
前期	3.76 (0.69)	3.73 (0.50)	3.74 (0.57)	3.74 (0.53)
後期	3.50 (0.46)	3.61 (0.47)	3.61 (0.43)	3.59 (0.47)
全体	3.91 (0.50)	3.84 (0.45)	3.87 (0.53)	3.85 (0.47)

4.4 入試区分ごとでの取得資格別の大学 GPA

入試区分ごとの取得資格別の大学における学力を評価するために大学での GPA を扱う。取得する資格や選択状況によって履修する科目に違いがあるが、卒業時の全科目における GPA を入試区分と取得資格で分けた平均値を表6に示す。()内は標準偏差である。なお、対象学部で必修となっている科目数は入学年度によって若干違いはあるが、保育士と幼稚園教員免許のいずれかで必修となっている科目を中心におおよそ40科目強である⁶⁾。

いくつかの先行研究では学校推薦型選抜での入学者の方が全体では低い(例えば、石井, 2014; 小松, 2011)とされているが、本研究での対象学部では一般選抜と比較して低くはなく近い値である。どの取得資格に対しても一般選抜の後期に若干低い傾向があり、後期の中でも保幼において顕著である。一方、取得資格ごとでは資格数が多い方がどの入試区分においても高くなっている。なお、入試区分、取得資格に関わらず標準偏差はあまり大きくなく、個人差が大きくないといえる。

以上の結果から、資格を複数取得する学生の方が履修する科目数が多くても GPA が高いといえる。4.3節での評定値の結果よりも大きな差が生じており、資格取得に積極的な学生は学習意欲が高く熱心に学んでいることが考えられる。このことは筆者らが小学校教員免許取得を主体として幼稚園、中高教員免許取得を選択できる教育学部に対して行った調査結果と同様である(深谷・小杉, 2023)。

表6 入試区分ごとでの取得資格別の GPA

入試区分	保幼	保幼小	保幼小司	全体
併設	2.73 (0.26)	2.80 (0.27)	3.00 (0.29)	2.79 (0.27)
指定	2.75 (0.31)	2.86 (0.26)	3.02 (0.17)	2.84 (0.28)
前期	2.68 (0.37)	2.82 (0.28)	2.95 (0.29)	2.81 (0.31)
後期	2.53 (0.24)	2.80 (0.30)	2.89 (0.26)	2.76 (0.31)
全体	2.70 (0.32)	2.82 (0.28)	2.97 (0.27)	2.81 (0.30)

4.5 科目別の GPA

大学での学力の詳細を評価するために、科目別で受講者の GPA の平均値を棒グラフで図2から図4に示す。ここでは資格取得に関係して全員が必修で受講している13科目を扱っている。13科目の内訳は、「保育士」「幼稚園教員」「小学校教員」すべてで必修科目(図中では、「全」と記載)である「教育本質論」1科目、「保育士」と「幼稚園教員」で必修科目である「保育内容総論」から「保育指導法(音楽表現)」までの7科目、「幼稚園教員」と「小学校教員」で必修科目である「発達と学習」から「事前及び事後指導」までの5科目である。なお、「事前及び事後指導」は教育実習の一部として本学部教員が担当している科目である。科目名は入学年度によって若干異なっているものもあるが内容はほぼ変わっていない。図2では受講者を入試区分別、図3では取得資格別、図4では進路先別で分けて示している。

図2より、科目によって若干の違いはあるが、4.4節で述べたように入試区分によって大きな違いがみられる科目はほとんどない。

図3において、ほとんどの科目において、4.4節で述べたように取得資格数が多いほど GPA が高くなっている。ここまで前述したように学習意欲が高いからだと考えられる。ただし、「保育指導法(造形表現)」と「事前及び事後指導」に関しては、「保幼小司」が一番低くなっている。「保育指導法(造形表現)」は松下(2018)が述べているように保育所と小学校における造形・図画工作教育に関して絵画指導に対する悩みが一番多いことから他の科目と傾向が異なると考えられる。また、「事前及び事後指導」に関しては、教育実習の一環であることから、実習に関わる内容が多いことで他の科目と異なっていると考えられる。

図4において、多くの科目で「小学校」が一番高く、次に「公立幼保」が高い。採用試験に筆記試験での学力が重要視される進路先を希望している学生の方が高

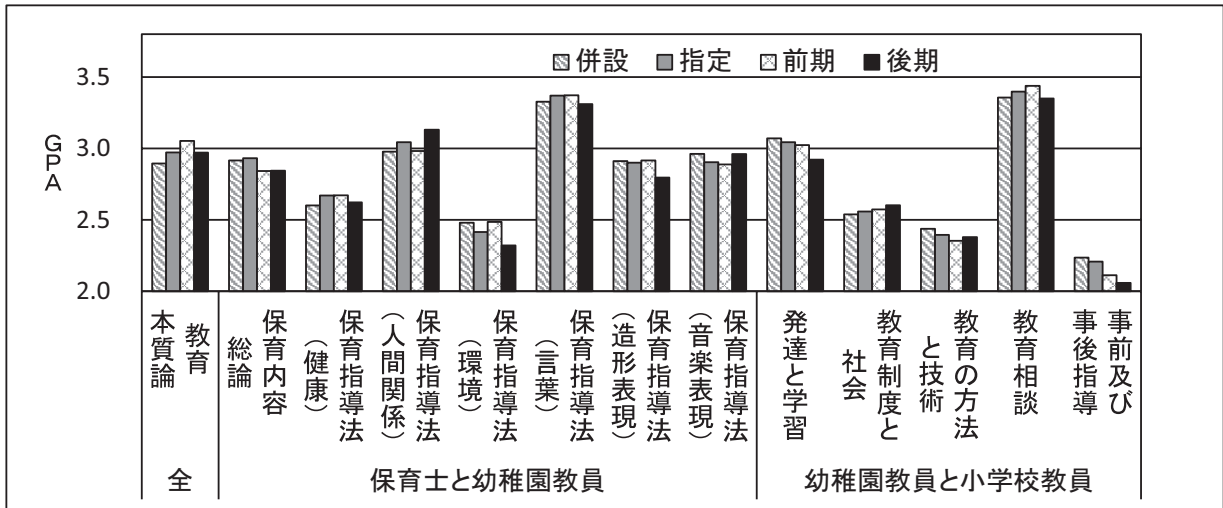


図2 資格取得に必要な必修科目における GPA (入試区分別)

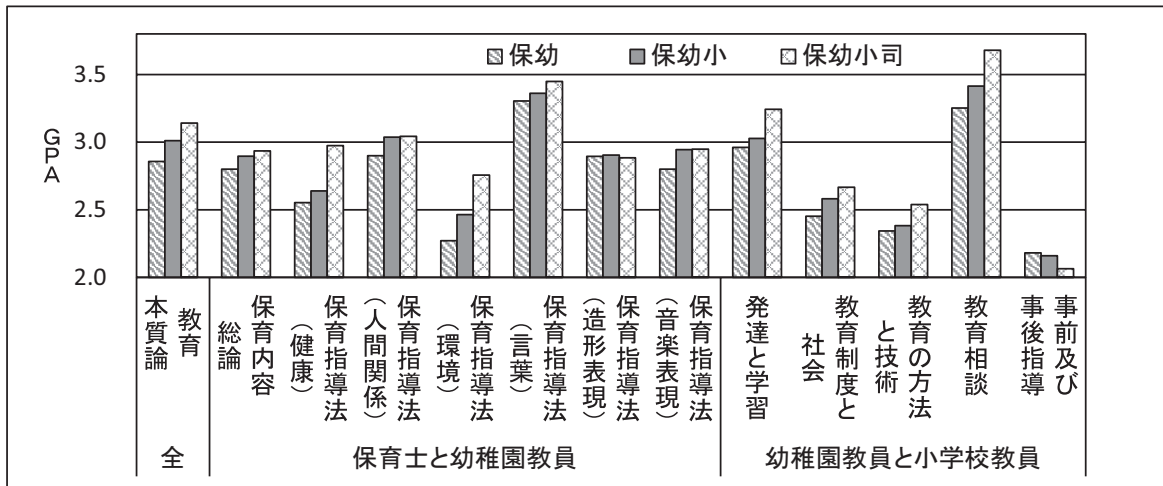


図3 資格取得に必要な必修科目における GPA (取得資格別)

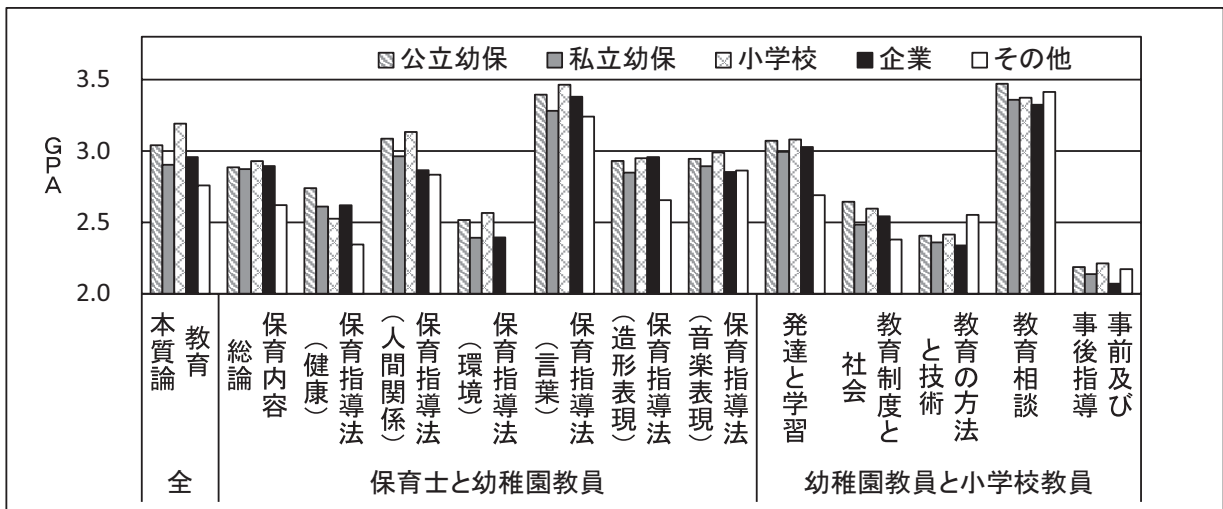


図4 資格取得に必要な必修科目における GPA (進路先別)

い GPA になっていると考えられる。ただし、「保育指導法（健康）」の授業内容は主に乳幼児の保健であるため「小学校」は低いと考えられる。

4.6 取得資格ごとの進路先の割合

取得資格の違いによる卒業時の進路状況を、保育士を含めた教員就職を中心に明らかにする。取得資格ごとに人数の割合（%）を進路別の帯グラフで図5に示す。進路先は3.3節で示した5つに分類している。

図5より、「保幼小」「保幼小司」では「幼保」と比較して「公立幼保」と「小学校」が多いことがわかる。特に、「保幼小司」では「小学校」が多くなっている。それに対して、「保幼」では「私立幼保」「企業」が多くなっている。

以上の結果から、小学校教員免許取得者は小学校教員希望だけでなく、公務員保育士・公立幼稚園希望の学生も多かったといえる。また、司書教諭は小学校で有用な資格であることから、小学校教員希望が強かった学生が多かったと考えられる。小学校教員免許を取得しなかった学生は、私立保育士・私立幼稚園希望の場合と保育士・教員を希望していなかった学生が多いといえる。

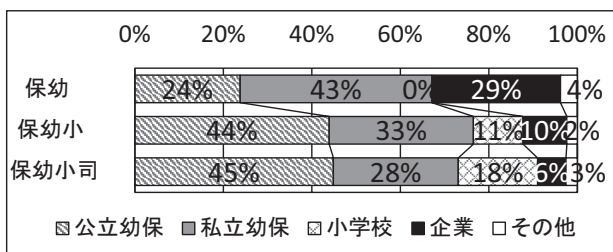


図5 取得資格ごとの進路先の割合

4.7 総合考察

本章でここまでみてきたように、入学後の取得資格の違いで受験時の評定値にみられる学力の違いがないにもかかわらず、大学での GPA が高いのは保育士と幼稚園に加えて小学校や司書教諭の資格を取得した学生である。また、小学校等の資格を取得した学生の方が公務員保育士や公立幼稚園への進路先が多い。これらは、資格を多く取得する学生の学習意欲が高いからだと考えられる。従って、保育士養成課程を有する学部において、小学校等の資格を希望する学生を多く入学させることで、入学後により意欲的に学ぶ学生を増やせる可能性がある。

そのためには、資格取得に対して高い意欲をもつ受験生が多く入学してくれる入試方法が望まれる。具体

的には、

- ・あらかじめアドミッション・ポリシー等により多くの資格取得を目指す人を受け入れる旨を知らせる。
 - ・アドミッション・ポリシーに合致する人物を選抜しやすくするため、総合型選抜を取り入れることを検討する。
 - ・学校推薦型選抜では、面接等で「思考力」「表現力」「主体性」等を適切に活用するなどして、資格取得に対する意欲を評価する。
 - ・一般選抜では、志望理由書等の資料の活用により資格取得に対する意欲を評価する。
- などの対応が考えられる。ただし、これらのことを実際に検証するのは今後の課題である。

5 まとめ

保育士養成課程を有する学部において、保育士資格と幼稚園教員免許のみを取得した学生と、小学校教員免許等をあわせて取得した学生とで人数、学力、進路状況等を調査・分析した。その結果、主に次のことがわかった。

- ・学校推薦型選抜での入学者よりも一般選抜での入学者の方が多くの資格を取得している傾向にある。
- ・大学受験時の評定値では、取得資格での違いはあまり大きくなかったが、取得資格数が多いほど大学での GPA が高い。
- ・小学校教員免許取得者は保育士資格と幼稚園教員免許のために履修する科目を含めてほとんどの科目で GPA が高い。
- ・小学校教員免許取得者の方が小学校だけでなく公務員保育士・公立幼稚園が進路先として多い。

従って、受験生の資格取得に対する意欲を踏まえて評価できる入試方法が望まれる。そのためには、面接等で評価している受験生の学力のうち「思考力」「表現力」「主体性」等を適切に活用すること等が考えられるが、実際に検証するのは今後の課題である。また、今後は入学後に学生の意識調査を行うこと等により、入学区分の違いによる資格取得に対する意欲を踏まえて募集人数の検討等を実施したい。

注

- 1) 初等中等教育専修においても希望者は幼稚園教員免許取得が可能である。ただし、保育士資格は取得できない。
- 2) 併設校制推薦入試は調査対象大学の併設高等学校からの推薦枠による入試である。
- 3) 2020年度入試までは「センター利用入試A」として実施していたが、2021年度入試からは「大学入学共通テスト

利用入試 A」としたような名称の変更や、入試区分ごとに募集人数の若干の変更がこれまでに何度か行われている。

- 4) 2017 年の教育職員免許法施行規則改正により「教科に関する科目」が「領域および保育内容の指導法に関する科目」となり、2019 年度入学生からは小学校免許に必要な単位数が増加しているが、本研究での対象者ではない。
- 5) 学校図書館司書教諭講習規程では履修すべき科目を 5 科目としている。
- 6) 2018 年の保育所保育指針の改定により 2019 年度入学生からは保育に関する科目に必要な単位数が増加して 50 科目近く必要になっているが、本研究での対象者ではない。

参考文献

- 深谷和義・小杉裕子 (2023). 「私立大学教育学部における一括募集入試入学者の取得教員免許ごとの特徴」『大学入試研究ジャーナル』 **33**, 212 - 218.
- 石井秀宗 (2014). 「推薦及び一般入試の受験者層の推移に関する検討」『大学入試研究ジャーナル』 **24**, 35 - 40.
- 小松俊朗 (2011). 「入試・コースと学内成績の相関に見る教育学科の動向」『教育諸学研究』神戸女子大学文学部教育学科, **25**, 67 - 83.
- 厚生労働省 (2022). 「指定保育士養成施設一覧」厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/000977025.xlsx> (2023 年 3 月 1 日).
- 松下明生 (2018). 「保育所と小学校における造形・図画工作教育の教科観に関する一考察—幼小接続を考慮した教育実習など造形表現・図画工作の演目に着目して—」『研究紀要』名古屋柳城短期大学, **40**, 135 - 147.
- 文部科学省 (2022). 「令和 4 年 4 月 1 日現在の教員免許状を取得できる大学」文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/1286948.htm (2023 年 3 月 1 日).
- 岡田了祐 (2018a). 「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の免許・資格併有の意義と可能性：「教科に関する科目（初等教科研究・社会）」における取組を事例として」『聖徳大学児童学研究所紀要』 **20**, 41 - 50.
- 岡田了祐 (2018b). 「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の免許・資格併有の意義と可能性（2）併有に関わる学生の意思決定の径路に着目して」『教職研究科紀要』 **8**, 89 - 105.
- 竹内聖彦 (2020). 「私立大学保育者養成学部における入試区分と卒業後の進路との関連」『大学入試研究ジャーナル』 **30**, 105 - 111.